Nº1038.BASTOS.16deMARÇO de1970. O PROGRESSISTA REG.Nº2695 Nº4576 SÃO PAULO.A.P.

バストス週報

第1038号
昭和45年
3月16日
発行

Diretor
Koiti Mori
Redator
Shion Oda
Rua Pres.
Vargas188
C.Post.112
Fone 40
BASTOS
C.P.
Anual
N.Cr $
18.00
Adian

霹靂 11

成功・不成功
（そして、その中間）

先日オ、クルース市の江利氏から「海外に光を掲げた人、前田常左衛門傳」という小冊を借りた。前田さんは佐賀県の出身で、数ある佐賀県人の中でも筆頭といわれる大成功者であるし、江利さんはパウリスタ線佐賀県人の世話役でもあるので、自県出身の大成功者前田氏の請姿を自身のことのように宣伝したい気持ちもあろうし、その気持同感である。

前田常左衛門氏は単に佐賀県のみならず、日本の農業移民として、恐らく一二を競う大成功者であるから、同じように四十年の歳月をもつ移住者の、或は成功、或は落伍という問題にふれてもいい時機になっているのではないかと思う。

この頃の邦字新聞に散見する移民援護協会をたよってくる老人の数のふえつつあるのに心打たれるものがある。

四十年前志を立てて日本をあとに、新天地を求めて渡って来たブラジルであるが、言葉や習慣のちがいに、或は経済事情や、其の他の理由で事、志とちがい、もろくも落伍してゆく人や、或は時流にのって、ぐんぐん伸びてゆく人。さまざまな現象を描き出していった。

若い頃は、どんな仕事にも従事できたが、六十、七十ともなると、労動は無理だし、扶養してくれる家族が無ければ養老院にでも引きとってもらうより仕方なく、援護協会の門を訪れて、身のふり方を相談することになるのであろう。

家族があれば、老人になったからとて追い出される心配はない。農家であれば何なり手助けになる仕事もあろうというもの、病でさえなければ、自家用野菜くらい栽培出来るだろうし、鶏卵其の仕事だとて手伝えるであろう。

養老院へ引きとってもらう人は、老人中の何パーセントとかで、左程多いとはいえなかろうが、聖市憩の家には百四、五十人も収容されているという。将来少し増はしても、減るようなことはあるまい。

前掲の前田常左衛門氏は、実は私と同航海の方である。船中で、ハッチがちがっていたのか、全然記憶しなかったが、農業移民の大成功者として列伝に出身県、船名、渡航年月などが記してあるので始めて判ったのであるが、お目にかかったのは、一昨年の九月の上旬であった。

マニラ丸同航海の集りに案内を受け聖市へ出かけ、コチア食堂の階上で、十人ばかりの老人と話をしていると、最後に「やあ、遅くなって……」と会釈して這入って来たのが前田氏であった。白髪赫顔の堂々たるカップク。柔和な人相であったが、壮年の頃は、相当な働き手であったろうことは骨格が老いて尚並々ならぬ様相をしていた。

数年前グワタバラの鐘ヶ江農場を訪問したことがあるが、いわゆる大農とは、こういうものかと感じ、前田氏の経営農場も、ほぼその規模を想像することが出来た。

その翌年、前田氏の農場をマニラ丸同航海の会場にするような話であったが、私は左足が神経痛気味だったので、出場しなかった。

錠剤 ゆるる
胃腸の強加に
衰弱の恢復
胃腸と栄養
ガン予防特効薬
綜合V.B酵素栄養剤
TO MO KA WA
プレゼンテに
喜ばれる
わか化粧品
美しいお肌が生れるひみつ
わかクリーム……説明入り
わかもと製薬株式会社
わか美容化学研究所

前田氏のような大成功者の家の客になることは非常な光栄であると思ったが、同じ船で渡伯しながら落伍者の一人のように感じて居る自身の姿と思いくらべ、何となく面はゆい気持がしないでもなかった。

前田氏は、後半生の四十年を有効に活躍して掴んだ成功者である。その同じ四十年を私は果して有効に活躍したか、と自問して見たが、どうも不充分だったように思う。否、不充分どころではない。ぐうだらな、安易な無計画な世渡りであったと後悔している。今になって後悔したとて何にもならぬが、成功者と落伍者の間には、その気構えに於て、実力に於て、勤勉度に於て大きな開きのあったことは事実だ。運、不運ということも、あるには違いないが、運を逃がすことも、不運を乗り切れないのも、落伍がもっ生まめるさ、だといえないだろうか。

前田氏の活躍ぶりと底力と勇猛心とは別掲の「前田伝」を見れば御わかりであろうが、全く自力で運を切り拓き、つまずいても、傷ついても、立ち直って行動力のすさまじさには圧倒されてしまう。

先ず、吾々は前田氏のような人を大成功とよび、多少差をつけて一般経済のある人を成功者といい、それ以下の人を何とよぶ可きか。実は考えた事もないのだが、中には人の庇護を受けなければ生きて行けない落伍者もある。

「成功」という言葉を、もう一つ掘りさげて見ると金儲けの外に事業をうまく成立させて行く事だが、事業の成就と金儲けは一般に表裏になっているが、金儲けに縁の遠い仕事でも、成功といってよいだろう。癌を征服する薬を発見すれば大成功だが、発見者が必ずしも金儲けにはならぬ。

精神講話を行って多くの青年に「活」を入れることに成功したが、清貧に甘んじる人もある。軍人学者など、その道で名を挙げても金銭に恵まれない人などがそれである。日系コロニアに於ては、文芸や美術で大成した人はへ多少例外はあるが）割合少く、法曹界、刀圭界、言論界、教育思想、宗教政治などの方面でも将来は傑出した人も出ようが、現時点では、まあまあの程度だ。且つそういう方面では、経済的に大をなすのは六ヵ敷かろう。

金儲けを主眼とするなら商業、農蓄産業を拱ぶしかない。昔とちがって金儲けの道も世智辛くなって来たので、計画性、合理性に乏しくてば成就請合いとはいいかねる。

「金儲け」ばかりが成功でない……と云ってもらわねば「うだつ」の上らぬ組もあろ。人並みの生計が出来、多少の貯えがあり、有時の際は寄附にも応じられる程度人は、ぶさいなりにも成功者である。

又、研究、美術などに従事して、仕事の新歩する人は、その道での大成功者というべきだろう。

それから大阪の万博に沢山の人が出かけるが、これらの人も、中以上の成功者と称揚しても然るべきものと思う。

吾々が渡伯したころは、押しなべて懐中乏しく、青マモンの塩漬も菜の一つであった。十年、二十年と歳月は過ぎ去ってゆくが、容易に頭は上らず、食って行くのが精一杯だった。それが、今から二十年前から様相が一変して、ぐんぐん頭角をあらわす人が目につくようになった。

そうして、最近では、恰ど吾々が日本で暮していた頃のような、社会情況となり、職業の分化ははげしく、ブラジル社会への同化作用も顕著となり、半世紀足ずで、こうもかわるものかと驚嘆する。

白髪童顔の人もめっくりふえた。私は財はつみそこなって赤貧だが、多少とも精神生活のできることを、不幸中の幸と思っている。国を出る時や大きな夢を、という歌の文句のように、やけ酒はのんでいない。

糸音

ブラジリア観光記（3）

真木諭吉

ブラジリアは、今は建設途上で、東京、大阪、神戸、京都、奈良のような、美しい公園や、遊園地などもなく、又自然美、人工的な美術物もあまり見受けられない。日本の有名な庭園師の相川さんが三年もかかって作った大公園も、立派な石もなく、枝振りの良い植木もなく、如何にもブラジル式で、唯、荘大であるというだけで、微に入り細に亘っての人工美とか、風流と云う様なものが見られないのが恥かしい。

官庁街の建物も整然として、荘厳ではあるが、長方形の箱を積み重ねた様な一定の建築物ばかりで、周囲は硝子窓一式で、壁画とか、彫刻とか言ったものは殆ど見当らない。而し、人造湖とか、市街の企画や衛星都市の配備等に至っては、整然として雄大其のものであり、青年の国ブラジルの前途をその侭表現している感じで、心の底から力強い荘厳な英気が湧き上るのである。

而し、ブラジリアの近辺は、一体に酸性土壌で、カンポばかりだから、主食物の生産は困難であるから、産地から供給

を受けなければならないだろう。又、海岸から隨分離れているから、工業も運搬費が高くつくので勃興しないであろうから自然消費都市となるであろう。それから一番驚いたことには、周囲の衛星都市が開拓当初其の侭の板小屋が大部分である事である。

下層界の経済力が如何に微弱なものであるかを、つくづく思い知らされたのであった。実に哀れな姿である。よくもあんな小屋に我慢して住んで居るものだと感心したのである。

各地の見学視察が終り、三時頃からブラジリアより百キロばかり離れたクリスタリドナと言う、水晶やメノーなど宝石の出る町へ土産物の買い出しに出かけた。

カンポの中に出来た小さな田舎町である。あちこちにメノーや水晶を砂が磨く小店がある。其の小店でメノーや水晶を買うわ買うわ、流石バストス人だ、持って居るなあと感心させられたのである。六時頃帰途に着き、七時過ぎタカチンガに着き、日本人のレストランテで夕食をして、外人のペンソンに行き宿る事とした。

翌日は朝四時の出発なので、一同早く就寝した。二十二日は予定通り四時出発帰途につき、ゴマニアにもリオブレットにも寄らず、一路バストスに向って車は走り続けている。七時頃遥右手にゴマニアの町が見えていた。雨は止む事なく、根気よく降り続けている。ユーモア冗談の送手達も飽きもせず交互に冗談を飛ばして互いに哄笑して退屈を紛ぎらせている。十一時頃ゴヤスとミナスの州境を流れるパルナイーバ川に来た。此の川の岸辺にカヂコと言う米糠から油を取るファブリカがある。此の会社は有名な大会社なので、ゴヤス平原と三角ミナスの六十余のアローズマキナの糠を集めて製油して居り、一昼夜で八十瓲の糠を処理する能力があるそうで、日曜もなく昼夜兼行で働いているとの事である。此のマキナで油を採った糠は良質の鶏の飼料となるので、油が採れ、飼料が良くなり、一挙両得な素晴しい事業である。お蔭で養鶏も安心して米糠が使えるのである。

此の地方はブラジル一の米の産地であり、又、土質のバナナ産地で、聖市の消費の大半を供給しているとの事である。土質もテーラロッシアで総ての作が良くできる。リオグランデを渡り、サンパウロ州に入ると、降り続いた雨も次第に小止み、ノロエステ線からは上天気となった。予定より少し遅れて七時前無事バストスに着いた。車の故障で、一日遅れたけれども他に何等事故もなく、愉快な旅行であった。ブラジルに生活する以上、国の首都へは一度は行って見る必要が

Eletro Radio Oriente

テレビジョール各種

ステレオ電気蓄音機各種

ラジオ・ピアノ・金庫・タイプライタ
扇風機（ヴィンチラドール）ラジオ、トランジスタ
冷蔵庫（ジェーラデイラ）洗濯機（センダクマキナ）
その他何でもあります。

各種家庭用電気器具類一切

ガルサ市ルア エイトロペンテアード 一一一番
本店 八巻兄弟商会
ガルサ電話七七三番、郵函二七九番
御注文はバストス市ヅッキデカシヤス街角
代理人 宇佐美宗一
電話店一四六、自宅一三五番

あると思う。急ピッチで繁栄して行くブラジリアである。近き将来は見違える様な立派な都となる事は疑いなしである。皆さんの観光をお勧めします。終り

第二回、四線 野球大会

去る三月七日、八日の両日、プ、プルデンテ球場に於て行われた。第二回、四線野球試合成績は次の通り。

本大会は全伯並びに各選手権につづく、パ線、ノロ線、アララ線、ソロ線の野球技術向上を目標として運営されるもので、年々盛大に行われるであろう。

バストスは、優勝戦迄は順調に勝ち進んだが、有力な宮崎、古谷両君が学業のため出聖中で出場できなかった。たゞども、早川投手が突然水当りを起して倒れるなどの不祥事があり、まけおしみではないが、無念の涙をのんだ次第。

（ADB柳浦マネージャ談）

第一日目 3月7日（土）

オリニョース

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	5A	5A

バストス

ア・マシャード

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
	3	0	0	0	2	0	0	0	A	5A

マリリア

アラサツーバ

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
3	2	0	1	0	0	0	0	0	4	7
	0	0	0	0	2	0	0	1	0	3

プ・プルデンテ

トツパン

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
4	3	2	0	2	0	0	0	0	0	7
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ジマーレス

第二日目、3月8日（日）

マリリア

一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	3	0	1	4	A	8A

バストス

トツパン

一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
3	0	0	0	0	0	0	1	1	5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

アラサツーバ

優勝戦

バストス

一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	1	1	0	0	0	0	2	A	6A

トツパン

アマルゴーゾ 12

訪日の條件

小茂田中央区長と、長橋商店主が一週間内に訪日するというので知人朋友で壮行会を開いた。時は三月八日（日）夜七時、場所はコチア君庫のサロン。小茂田氏の挨拶は、「訪日」と言うことを考えていなかったわけではないが、こんなに早く実現するとは思わなかった。

実は息子が一月に出聖した際三月の飛行機の切符を買っておいたというので、親にも相談せずと、と内心立腹もしたが、それ迄にして親に訪日をすすめてくれるかと、嬉しく思ったわけで、急に、聖市へ出て手続きをした次第です」との事であったが、口では簡単に訪日というけれど、誰かが言ったように、三つの条件が必要であろうということだ。

第一は、金がなければならぬこと。

第二は、留守中　事業を経営できる守備役がある事。

第三は、健康であること。

小茂田さんは、訪日の條件にぴったりである。息子さんが「留守中は僕らが協力して家業を守りますから、悠っくり安心して訪日して下さい」と申してくれますのでと、小茂田さんの第二条件は充分である。第三の健康である点、小茂さんは五十を一寸過したばかりで、一見青年の容貌である。

そこへ水馬久氏がたきつけたからたまらない。水馬さんの壮行激励の辞というのを御紹介すると……。

第一條　飛行機が羽田に着いたら、時を移さず東京へ出てトルコ風呂に行くこと、ここでトルコ嬢に身体のすみずみ迄揉んでもらってブラジルから持って行った垢をきれいに落してもらうこと。（大笑）

第二條　それから汽車で京都に行き、祇園の花街で美妓を侍して豪遊すること。苦労したブラジル生活の過労を一気に洗い流すこと。

第三條　次にマイス西下して九州へ行き、炭坑地帯の裸踊を充視察すること。

第四條　一旦東京に帰り、樺太（ふと）を北海道へわたり、登別の混浴温泉に浸り、充分に精神的な怪楽にふける。

こと。向うも裸、こっちも裸、ブラジルでは味（あじ）えない　醍醐（だいご）である……

その他十條までであったようだが、腹を抱えて笑っている内、みんな忘れてしまった。節度から覗くようなもの迄あった

死亡通知並に会葬御礼

母、森川たよ（62）儀予ねて病気療養中の処薬石の効なく去る三月七日永眠、翌八日自宅出棺バストス墓地に埋葬致しました。生前御交誼をいただきました方々に謹んで御知らせ致します。

尚、葬儀に際しましては御多忙中の処御遠路御厭いもなく御会葬を賜り、其の上過分なる御香奠御供花までいただき、厚く御礼申上げます。

実は一々参上の上御礼申し述ぶべきですが、何分取込中にてその意を得ませず、失礼とは存じますが週報紙上を以って厚く御礼申上げます。

一九七〇年三月十日

バストス市　第二組

喪主　長男　森川悠一

妻　〃　光子

父　遺族　森川謙一

外　親戚　川　一

友人　同　同　同

バストス中央区二組様
バストス中央区様
バストス南米本願寺様
バストス生長の家誌友会・白鳩会・青年会様
バストス仏教婦人会様
バストス連合仏教婦人会様
バストス聖母婦人会様
バストス商工会様
バストス・ロータリ倶楽部様
バストスACMB様
バストス五コレイジオ生徒一同様
アタマンチーナ・コチア産組支部様
バストス在住各位様

と思うが、真偽の程はさだかでない。

水馬氏は、自分もあとから行くが、先行者たる小茂田、長橋両氏は自ら躬を以て実践あらんことをと結んだが、これに対し、小茂田氏は、

「只今の水馬さんの訪日十ヶ条贈に銘じまして必ず実践して参りますからは何卒御安の程を……」で又々爆笑。

長橋さんは万博記念に東京と大阪で行われる第一海外剣道親善選手権大会に伯国より派遣の十選手にまじって出場することになったので、小茂田さんより早く訪日が決定していた由、二人ともカタブツで、少し位モーションかけられたとて、ビリッともせぬ方だから、悪友いい気になっておだてるのである。

DR小林は数年前日本外務省の招待留学生で訪日した時の参考話をしたが、まず、こういった調子。

「僕は当時バストス商工会長だったので名刺にそう印刷しておいた。向うでは大阪商工会長でも、バストスの商工会長でもわかりやせんです。町の大小など問題ではない。よろしく肩書きを大きくして行って下さい。肩書で市長でも町長でも訪問するのですが、何しろ大金持が多いから、歓待して大御馳走してくれます。その上、いいところえつれていってくれる……」

水野支店長(?)の、又おもしろい。

「又ド写真なんど、カメラさえありゃいくらでも撮れるそうです。日本じゃ、マル出しでも通るが、ブラジルは紳士国だから、そんなの持って帰りゃ、税関で直ちに没収されてしまう。

そこで例の三角布を写真に貼っておくとよろしいそうで、長橋さんは写真の選手でもあるので、その辺ぬけめなく……」

当の長橋さん目をぱちくりさせて、

「僕は、たとえ敗れても、態度だけは立派でありたいと念じております」

早川司会、何を云い出すか判ったものではないと、胸中で思ったかどうか、

「では、この辺で名残はつきませんが、一応解散ということに致します。ではお別れの乾杯……」

時間を守ろう

小茂田、長橋両氏の壮行会に参加させてもらって、時間のことを云うと、その会にだけ当てつけるようで、全く申わけないが、こうした会は、午后七時といったら、五分たがわず開始できるよう、お互いに時間を守りたいものだ。

午后七時五分前に会場に上っていったら、先着者は二十名くらいだった。みんな席についたのは七時半だった。三〇分位

BAZAL AMERICANA
ALFAIATARIA HAYASHI

バザール・アメリカーナ
学生用品専門
子供向きの品色々あります
御利用下さい。

アルファイア
タリア・はやし
新型・流行・丁寧に仕立ます
ここゲル・林
ルア アデマル デバーロス 電話二〇四番

移転御しらせ

岡野材木店は都合により左記へ移転いたしましたから御いたします。
相かわらず御引立下さい

今までの処より(ヅッケデカシヤス街)の南方三筋目、ミランテバローゾ街角
(宗像製材所)
電話二五六

篠崎才八郎

どうでもいいじゃないか、という気持がコロニアの進歩をはばんでいる。ブラジルの、ソウ、アマニヤンは改善すべきアナではなかろうか。

文協会におねがい

こんどのように、小茂田さん、長橋さんの壮行会を一しょうに行うようになったことについては内密の話によると、主催者(世話人)不在で、ぎりぎりの処で話がきまった由だ。成功者を送り出す目出度い行事だから、スムースに進めたいものである。

ある人の意見によると、文化協会が音とってもらうと一ばん無難だろうという話だが、文協の役員方の御一考を煩わしたい。文協はコロニアバストスの協和、又は調和の役目を以ているから文協の発言でやってもらうと、どこにも波が立たず調子がいいというお願いである。又何かの都合で触れ度くないというなら、規定を作ってもらったらどうであろうか。たとえば……。

◎中央区の場合各組が主催し、壮行会に主賓となる人の意見を参酌して、他組の人にも呼びかけるようにすること。つまり、各組の役員たちが世話人となる規定にすればよかろうというわけである。むずかしいことではなさそうだ

から実施できるよう、御ねがいしたいものだ。

要は、公の役目にある人が音頭をとるのが一番無難だという話である。

糸音

（海外に光を揚げた人）

前田常左衛門傳 (1)

一 青年時代

一九〇八年（明治四十一年）九月なかばの昼下りのことである。

肥前の国、唐津から、当時魚港と陶磁器で知られた伊万里という港へ西南に走る県道筋に、南波多という村があった。（今は伊万里市、南波多町となっている）

この村の「鳥越の宿」というところで、道端の茶店の門口に繋られた一枚のポスターを、片手に駄馬の手綱を握りしめて、くい入るように見つめている一人の若者があった。

若者といっても、ことしようやく二十才をこしたであろうかと思われるこの男は、秋とはいえ、焼けつくような陽をうけ、埃のついた顔に汗にじませ、なにやらぶつぶつと独言をつぶやいていたが、やがて腰の手拭で汗をふきながら、なにごとかを決心したらしく、馬の手綱をもちかえて、山手の部落へと急いで去った。

この若者こそこの物語りの主人公、前田常左衛門氏である。彼は明治二十年、ちょうど今から八十二年前の九月十九日、佐賀県西松浦郡南波多村大川原というところで生れた。

家は代々の百姓で父は甚助、母はえつとよび、長兄松左衛門を頭に男の子七人、女の子三人という子沢山であった。彼はその五男であった。

もともと、この南波多村では前田姓を名のる一族は、百姓でもわりあい豊かなほうで、ことに彼の家は、祖父時代には相当ならした大百姓であった。祖父の名が常左衛門であったから、父の甚助は、彼の生れながらにしてその屈強な体格と様相をみて、祖父の名をそのまゝ常左衛門と名づけた。しかし、なんといっても彼の家は子沢山の大人数で、家計は必ずしも楽ではなかった。まして、将来これだけの子供をそれぞれ独立させることは、容易なことではなかった。

父は彼が十歳位いになると、親類の家に養子にやる算段をしていた。だが父は、成長するにつれて、とても養子になどむく子供でないことがわかって、彼を養子にやることを断念しなければならなくなった。生れつき負けず嫌いの凝性で、頭もよく、機智に富み、一たんこうと思いついたことは、是が非でもやりとげるというのが彼がもって生れた性格であった。

当時この村に独学で学を身につけ、教鞭をとっている川崎丈右衛門という夜学の先生がいた。彼は尋小学校へ通うかたわら、十歳の時からこの先生に師事して勉した。頭のよい彼は、補修科二年で、すでに日本書記などを読みこなし、四年の学習資格を得ていたという。

夜学を了えた十四才の春、同じ村に住む次兄弥造のところへ子守奉公にやらされた。それから二年たって十六になる、とこの村の富農の家に二カ年づつの契約で、四カ年下男として働きに出た。気性が気性だったから、奉公先きでも実によく働き、ことに彼の働きぶりは段取りがよく能率的で、又人の使いこなせない荒馬でも容易に使いこなすので、村の者は舌を巻く程であった。しかし、当時の農村の慣習として、ここでもご他聞にもれず、主従の差別がひどく、安い給金で朝は朝星、夜は夜星、はては深夜にいたるまで草鞋つくりといった具合にこき使われた。

ある日のこと、この村の学校建設敷地の土木作業があった。その日彼は、奉公先きの出前として働きにでていたが、ちょうど昼食の時間になったので、空腹を満たすべく、おかみさんのつめてくれた弁当箱を開いて見ると、ご飯が腐って悪臭を放っていた。おかずも前日の残りもので、一見して残飯であることがわかった。仕事については何の不平もいわなかれも、このあきれにもひどい仕打ち我慢が出来ず、騒然として奉公先きにかけ戻り、俺の弁当箱を台所へ放り投げると、くびすを返してわが家に帰った。翌日、奉公先きから詫言をいって迎えにやって来た。働き手の彼に去られると、たちまち困るからである。両親もしきりに主家にもどるようすすめた。しかし彼は頑として聞きいれなかった。

そうでなくても子沢山で食い扶持に困っていた生家は、彼の出戻りでますます苦しくなった。

その頃この村では頼母子講というのがはやっていた。一つのグループをつくり、このグループの一軒一軒から、毎月一

御禮

金一封也

貴下の交通事故のありました節御見舞致しました処御丁寧な御返しがあり組内一同恐縮しております。
紙上乍ら厚く御礼申上げます。

内馬場七郎様　コチア村一同

定の金額を徴収して積立て、入用な者に
これを落札する仕組みである。落札した
者はある程度まとまったこの金を、借金
の埋め合わせや事業などに使ったものこ
ある。しかし現金収入の少ない農家には
落札してもその後の毎月の掛金に困る者
が多く、得てしてこの落札して得た金も
、焼石に水といったふうに流れがちであ
った。

彼の家も、この例にもれず、幾口もの
頼母子講の後掛けにさゆきゆうとしてい
た。働けど働けどわが家の暮しは楽にな
らざりで、苦しくなる一方であった。こ
のような生家の苦境をみて、いたたまれ
なくなった彼は、また下男奉公にでた。
多少の遠いはあっても、下男奉はどこで
も変りはない。ことに今度の奉公先きの
主人は酒ぐせが悪く、よく伊万里へ出か
けては、そのたびごとに梯子酒で帰りが
遅く、夜中に三里の山道を手提灯で迎え
にやらされたことが幾度かあった。そし
て居酒屋でへべれけに酔いつぶれている
主人を主人に帰宅をすすめると、きまって
「下男のくせに生意気な」と頭からどな
られた。それでもなんとかして連れて帰
うなければ、おかみさんに叱られるの
で、拝むようになだめすかして、やっと
の思いで帰りついたときは、すでに一番
鶏が鳴いているという具合だった。それ
ばかりでなく、三度の食事も満足なもの
を食べさせられたことがなく、まるで人
間扱いではなかった。

二。十七才で炭坑夫に

明治三十九年――日露戦争のすんだ翌
年は――――降雨の多い年だった。畠では麦
がくさり、野良からの収入は半減した。
村の農家は家計の足しにと、それぞれに
出稼ぎに出かけねばならなくなった。

彼も亦、押川炭坑の採炭坑夫として働
くことになった。寒さに弱い彼は、雪を
混えた飛走の空っ風の中で仕事は真平だ
とばかりに、坑内入りを志願した。安全
燈を提げて、地下水の垂れる坑内に入り
、終日、片膝をついて、ツルハシを振う
仕事は、生やさしいものではなかった。

だが、彼は十七才の血気にまかせて、
逞ましい体に汗を光らせながら、ぐんぐ
ん仕事をやった。狭い坑内で、生命の火
花を散らす荒仕事は、向う気の強い彼の
気性に、ピッタリだった。

ところが或日、仲間の一人が五本のダ
イナマイトに一時に点火したところ、一
大音響とともに炸裂して、爆風の煽りで、
安全灯は消え、辺りは一瞬暗黒となり、
無気味な杭木の軋みとともに、岩盤の崩
れる音に混って、恐怖にみちた人々の叫
びが聞えた。

御礼

私事、此の度びファルツーラ区より、エスペ
ランサ区DR木村養鶏場に転出することになり
ました。

転出に当りましては、ファルツーラ区会並び
に、ファルツーラ農業倶楽部より、私の書記
に対する謝礼として、立派な事務机並びに椅
子を、又、男女青年会より、小夜子、克彦に
記念品を賜りました事を厚く御礼を申上げま
す。

又、移転の際には御多忙中の処、多数御手伝
いを戴き、且つまた御餞別まで賜りました事
を重ねて厚く御礼を申上げます。

一九五八年渡伯以来十二年間ファルツーラ区
の皆様は愛らぬ御同情と暖い御庇護とに依り
まして、家族一同当地の風土にも慣れ、大禍
なく過し得ました事を心から感謝致しており
ます。

今後共、宜敷く御指導、御鞭撻賜わらん事を
御願いたし、略儀乍ら紙上を拝借し、御礼の
詞に代えさして戴きます。

一九七〇年三月十一日

萩原典一
他家族一同

ファルツーラ区様
ファルツーラ農業倶楽部様
ファルツーラ男女青年会様

AVISO
Yoneko Kajiyama

おしらせ

編物・機械編み
一切教授致します

冬物の毛糸編み
御用命承ります。
デイスデノベンブロ街
梶山米子

御礼

金一封

貴下の全快祝いとして当会に御寄附下さいました。
謹んで拝受いたしました。

三月十三日

パストス日伯文化協会

内馬場七郎様

本能的に、抗道の地下水の溜りの中に
四ツ匍になった彼は、落盤――生埋め、激
しい胸の動悸を感じながら、手さぐりで
少しづつ身を動かして前進した。

次号へつづく。

死亡通知並に会葬御禮

夫、磯谷喜右衛門儀永らく静養中の処、薬石の効なく去る三月八日午后八時四十分、七十九歳の天寿を全うし安らかに永眠致しました。

生前中は一方ならぬ御世話に相成り、誠に有難く謹んで御礼申し上げます。追って翌九日午后五時バストス南米本願寺に於て告別式を営み、バストス墓地に埋葬仕りました

葬儀の節は御多用中遠路御厭いもなく御会葬賜わり且つ過分なる御料花輪など御恵供下され厚く御礼申上げます。

一々拝眉の上御礼申述べる筈の処取込中にてその意を得ず失礼乍ら紙上を以て御礼申上げます。尚ウニオン区の皆々様には一方ならぬ御世話に相成りました。重ねて御礼申上げます。

一九七〇年三月十二日

喪主　妻　磯谷ツキノ
孫　磯静江

親戚代表　山下勲
田中清
山下和義
小倉兄弟
光石タケノ

友人代表

ウニオン区の皆々様
バストス南米本願寺様
バストス仏教婦人会様
バストス婦人会様
バストス連合仏教婦人会様
山口県人会様
バストス老人倶楽部様
バストス在住の皆々様

Aviso de Cine Bastos

三月十七日(火)　十八日(水)両夜とも八時
立　松竹　天然色
九ちゃんのでっかい夢
九ちゃん逃げきるか／殺し屋追い込むか、奇想天外の出世爆笑大レース！
坂本九　重盛美子　ジミー藤尾　竹脇無我　桜井センリ

2本立　松竹　天然色
恋する年頃
こんなに、こんなに愛している／新コンビで熱演する三田明・早瀬久美の初恋と青春讃歌！
三田明　石立鉄男　ケン・サンダス　早瀬久美　市川瑛子　佐野周二

三月二十日(金)八時　廿一日(土)九時半
東映　天然色
帰って来た極道
機関銃、バズーカ砲、カービン銃、手榴弾、装甲ジープで暴れまくる極悪親分と えらい奴！
若山富三郎　待田京介　川津清三郎　虹川清子　大木実

三月二十二日(日)九時半　二十三日(月)八時
監督　佐々孟　脚本　三村春彦（すべての雑誌全女に訴える問題作！）
松竹　天然色
さまざまの夜
婚前のセックスは是か非か／甘い感傷に酔うて許したアバンチュールのキス、愛の確証をまさぐる三十才の女心！
勝呂誠　津川雅彦　沢村貞子　山形勲　北林早苗　三ッ矢歌子　南田洋子

2本立　松竹　天然色
汝風の中の二人
このまま朝まで歩いていたい。君と死ぬまで別れずいたい！
三田佳子　三益愛子　中村晃子　栗塚旭　河内桃子　唄ジャンボ三島敏夫

三月二十四日(火)二十五日(水)両夜とも八時
松竹　天然色
人妻椿
帰らぬ夫よ、いとし子よ、……涙で咲いた人妻情／波乱の旅路をゆく悲恋大作！
竹脇無我　早瀬久美　監督　桜井秀雄　田代美代子　橋幸夫　宇佐美淳

三月二十七日(金)八時、二十八日(土)九時半
大映総　天然色
雲を呼ぶ講道館
必殺の投げ業か、捨て身の迴転か？／鮮血が飛び、肉が裂け、死んでもひけぬこの勝負！
本郷功次郎　藤美潤　宇津井健　安美千子　長谷川待子

「鬼婆」が都合で少々遅れますので只今翌市で上映中の名画「雲を呼ぶ講道館」と次週の「三匹のかまきり」を特別に上映致すことになりました「三匹のかまきり」　二十九日　三十日　詳細後報

ヴォクスワーゲン
Volkswagen
"CRUZAUTO"
Osvaldo Cruz Automóveis Ltda.

Conserto em oficina terão desconto de 20% sobre mão de obra Aquisições das Peças terao descontos de 10%,

御挨拶

このたび、カリフォルニア、モトール株式会社の業務一切を譲受け、従前の場所に於て営業をすることになりました。
何卒よろしく御利用の程御願い申上げます。

二月十五日

クルザウト
オズワルド　クルース
自動車有限会社
C.P.一五六

修理費は二〇%割引
ペッサは一〇%割引